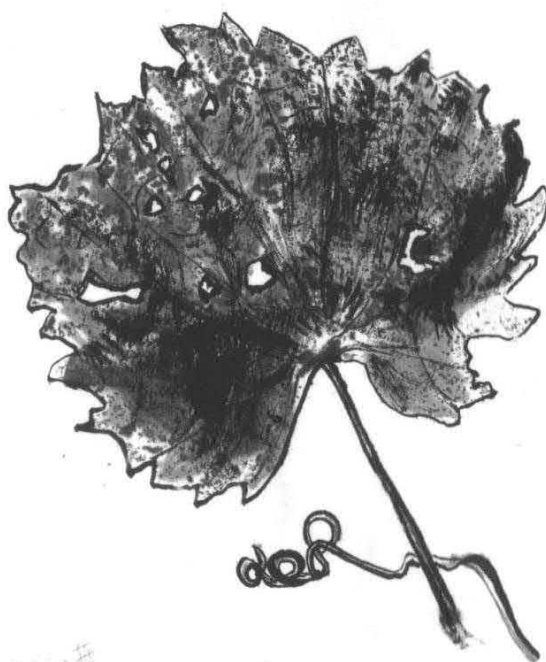


水トラストニュース

2019.12 No.41



東大田町
107.9.19

もくじ

御嵩町に遮水型リニア残土処分場が！1
丸太を出荷しました3
農家さんから米作りについて話を聞く4
2018年度 収支決算報告6

御嵩町に遮水型リニア残土処分場が！

籠橋 まゆみ

「御嵩町にリニア残土打診 JR 恒久処分 重金属含む恐れ」

2019/10/7 朝日新聞社会面の大きな見出しを見た御嵩町民はえっ！と驚きそんな馬鹿な？と信じられなかったことだろう。20 年前、管理型産業廃棄物処分場建設を巡り、住民投票まで行ったこの町で、あり得ないとほとんどの町民は思っているからだ。

明るる 8 日、中日新聞社会面にもほぼ同じ見出し、同じ内容の記事が掲載された。ただひとつ違っていたのは、「渡辺町長は、現状では何の方針も決まっていないことを強調し、要対策土は町内に仮置きしたとしても別の場所で処分すると思っていたと話した」との町長のコメント部分である。

初めて聞いて戸惑っているのなら、なぜ「要対策土(基準値以上の汚染土)は持ち込んで貰っては困る」と即座に断らないのだろうか？

美佐野の町有地が残土処分場候補地として初めて公になったのは、2014/7/19 の新聞報道だったと思う。岐阜県は県内の残土受け入れ先を一覧化して JR に情報提供し、御嵩町は美佐野の町

有地での活用を計画していると記事に書かれている。

その後、御嵩町議会の一般質問で、美佐野の町有地が町内でも希有の希少種の宝庫であることが議題となった。

2015/3/12、中日新聞可児版の議会だよりには次のように書かれている。

「町長は貴重な自然は把握しており、2014 年 1 月、古田知事に『美佐野の町有地の希少動植物対策を』との意見書を提出した。と答弁した」

美佐野の町有地が希少動植物の宝庫であることは、県も町も知っているという。それなのになぜ、その場所に遮水型残土処分場が計画されたのだろうか？

2015/5/1、JR に情報を提供するために、生物環境アドバイザー会議が招集された。当時、鳥類と植物を担当していた私に対して JR はこう言った。

「隠さないで情報を提供して下さい。その方が自

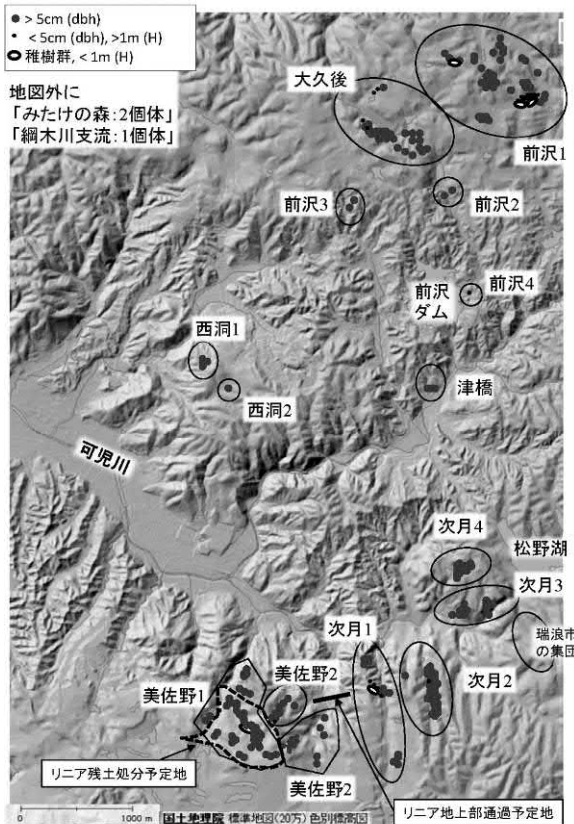


図. 御嵩町におけるハナノキ個体の分布

然を守ることになるのです。本当です」

折しも4月末、8年来調査をしてきた御嵩町内のハナノキの分布記録を出版したところだった。ハナノキを中心として、他の植物相や観察した生物も掲載している。

愛知県の県の木でもあるハナノキは、高さ20m以上になるカエデの仲間で、環境省の絶滅危惧Ⅱ類である。数千万年前という古い時代の生き残り、岐阜県東濃地方を中心に長野・愛知の限られた地域に分布し、成木の数は2000本余りといわれている。

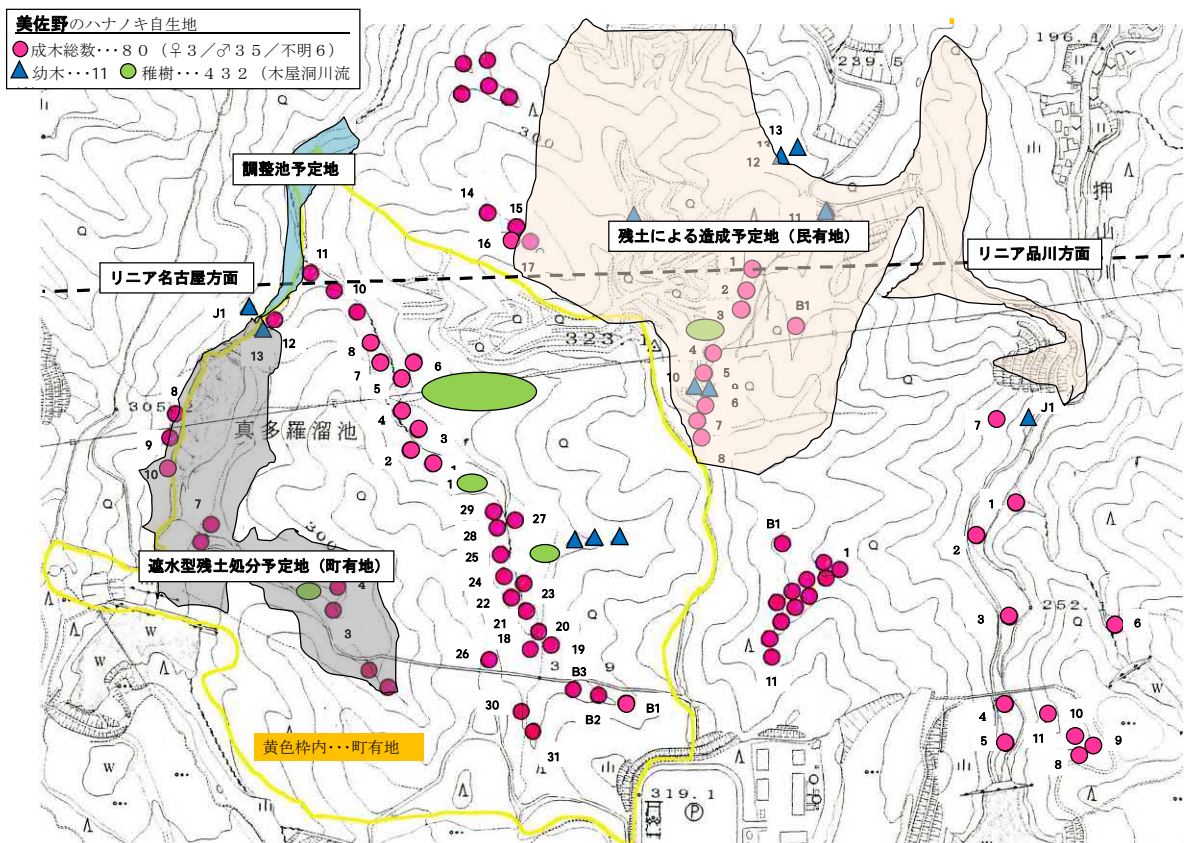
2015年時、御嵩町内では、胸高周囲15cm以上の成木240本、15cm未満の幼木119本、高さ120cm以下の稚樹526本が確認されている。

処分場予定地のある美佐野地域は、成木80本、幼木11本、稚樹432本を有する町内でも最大の自生地である。

今回計画されている残土処分場を地図に落してみると、遮水型処分場で成木11本と幼木2本、調整池で成木3本、アクセス道路で成木2本、民有地で成木12本と幼木6本が当てはまり、少なくとも成木28本、幼木8本のハナノキが埋立の犠牲となる。

また、予定地は、ハナノキと同じく東海地方の固有種であるシデコブシ、ミカワバイケイソウ、クロミノシゴリをはじめ、カザグルマ、ミズギボウシといった湿地性植物が生育する湿地帯である。木屋洞川には、タゴガエルやアカハライモリ(環・準)が生息する。

国・県・御嵩町のレッドリスト種が植物で23種、鳥類で17種確認され、サシバ(環・Ⅱ類)やミゾ



ゴイ(IUCN、環・Ⅱ類)サンショウクイ(環・Ⅱ類)の営巣も観察されている。それは JR も認めている。

2016/4/22、環境省は日本の重要湿地の改訂版を公表した。これまでの 500 ヶ所から 633 ヶ所に増加し、22 の湿地タイプに区分されている。

この公表は、ある地方自治体のクレームにより1年以上遅れたといわれている。全国でただ一つリストにクレームをつけたのが岐阜県である。環境省のホームページを開くと、No.274、東濃、中濃地域湿地群(湧水湿地)の中に御嵩町の「前沢ダム周辺湿地群」の名がある。初めのリストではもう1ヶ所「美佐野ハナノキ湿地群」の名もあったという。この名前を消すために、当時の御嵩町担当者だった S 氏は環境省にまで文句を言ったと証言している。

2017/6/13 中日新聞可児版には、JR からの残土受け入れ説明会の記事が載っている。渡辺町長は「やっとボールが帰って来た。1 年検討した上でノーと言うかも知れない」とコメントしている。この時点で JR が示した計画は、町有地が除外され、民有地のみで残土処分を行うというものであった。JR は自然環境に最大限の配慮を行ったと記されている。

その後、どのような展開があったかは報道されていない。次に私たちが目にしたのが冒頭の 2019/10/6 日の朝日新聞の記事だった。

この処分場問題について、12 月 10 日、O 議員が一般質問をするそうだ。議員達は、「遮水型処分場はさすがに問題だが、かといって町有地の埋立が白紙になってもまずいだろう」と思っているようだ。

2015/10/17、中日、水越直哉氏の記事によると、岐阜県でのリニア残土搬入候補地は 61ヶ所に。県内の発生量は 1280 万 m^3 、JR 車両基地造成で使用する分を除いた 940 万 m^3 を希望しているのに対し、候補地受入容量は 2300 万 m^3 と JR の要請量を大きく上回るとある。

すでに、残土を受け入れる自治体に対して、〇〇億円という国家予算並の数字が飛び交っている。御嵩も外れてはならないとの思惑を感じるのは私だけだろうか。

丸太を出荷しました

11月1日、町有林で間伐したヒノキ材を大王製紙へ出荷しました。今回は14.6トン。
(丸太1トンから、ティッシュペーパーが約1000箱できるそうです)



農家さんから米作りについて話を聞く

小枝 カエル

日本の主食である米のおいしさを知ってほしい。そこで『地元のお米を食べよう。お米を知ろう』という講座で、水トラストにも来てくれる中島さんを講師に話を聞いた。

2019年10月20日、名古屋の生涯学習センター。参加者は15人予定なのに5人。

以下中島さんの話の内容のまとめです。読んで、もっとおいしくお米を食べてください。

まず米ができるまでを絵と言葉で確認。

米作りは3月からはじまる。①3月頃 田おこし→②4月頃 苗作り→③代(しろ)かき→④4月～5月初め 田植え→⑤草取り、肥料→⑥8月 出穂(しゅっすい: 穂がでる)開花→⑦9月 稲刈り→⑧選別、出荷 →⑨掘り返し(切り株を掘り起こして土に返す)

それぞれの説明

② 土をトラクターで掘り起こしてやわらかくする。まだ水はない

② 専門業者が田植え機用に箱に苗を作って販売している。苗の箱に消毒、苗にするモミに消毒、この段階でかなり農薬が使われている。苗は20日で12cmに成長、それから植える。でも中島さんは自前。モミを選別、苗を育てて、田植え機で植えている。

③ 田植えのとき、水路を作って田に水を入れ、肥料をいれ、土を平らにする。

④ 田植え機で苗を植える。1反に18箱。5月に植えるのは、台風を考えて少し早めに。

⑤ 肥料は、ペレットになっている。人が田に入らず投げると、ゆっくり溶けて、田全体に行き渡る。ペレットのプラスチックが溶けずに水路に溜まっていくので、これがマイクロプラスチックとなり散っていくのではと業者に質問、業者は溶けるから大丈夫と返答。

農薬は、水で薄めて人が撒くかドローンを使用。1年で使用できる農薬の数が決まっているので、苗の選別、カビ、カメムシよけなど どの農薬を使うか考えて使用。農薬も2,3年で耐性ができ使えなくなる。残りは鍵付きの倉庫を作って保管。2,3年に1度業者が回収に来る。高い処理費を払って北海道まで運ばれ、国が指定した谷へ捨てられるそう。この土地の安全性は疑問。

⑥ 花がさいて、米(もみ)になる。病気だと白くにごって、実がよくできず、質が下がる。



⑦ 9月、台風をさけて稲刈りする。コンバインで稲刈りと脱穀をして、穂と藁に分ける。藁も切り分けられる。(藁は肥料になる)

⑧ 刈った米を乾燥させる。(雨の多い9月に刈ってしまうので「はざかけ」をしてもおいしくならない。天気のいい10月の天日干しが一番おいしくなる。)

モミの中の石をとる。次に識別選別機(しきせんき)で米を上から落とす。落ちるまでに、未熟米(いもち病になったもの)、黒点米(カメムシに食われたもの)などを画像で見つけ、エアーではじき出す。それを5回ぐらいしないと市場に出せない(白く、きれいににならない)とのこと。不良の米は3kgに300gぐらいで。いもち病の米はぱさぱさ、黒点米は苦いらしい。中島さんは鶏のえさとして利用。30kgの袋に入れて出荷。そこで2箇所刺して、1000粒ぬき取り、等級をつける。1000粒に不良米5粒あったら2級に下がる。3級まで規格内。それ以外は規格外。この検査で印が押される。ほとんどは1、2級で通り、市販される。

規格外の米は東濃からある業者が買いに来る。せんべいの原料となるらしい。

等級は味とは別。食味は国のエキスパート20人が基準米のコシヒカリと比較。特A、A(=基準米と同じレベル)A'、B、B'で味のランクがつく。粘り、モチモチ感、硬い、やわらかいがあるが、それは人の好み。岐阜で多く作る「はつしも」は特Aで基準米よりおいしいらしい。

中島さんは倒れにくい、いもち病に強い、遅く植えられる、富山の「てんたかく」を作る。(コシヒカリは有名ブランドで売れるが、倒れやすい、病気になりやすい、台風に弱い。)

⑨ 稲刈り、出荷の後、切り株を掘り起こして、土に返す作業をする。そこから春に備える。

こうして半年以上かけてお米ができます。それまでに使う機械はトラクター、コンバイン、米乾燥機、米粒選別機、とすべて買わなければならない。最小サイズでも1000万円かかるそうだ。大きな田圃には、サイズとパワーが増して「農機具のベンツ」と呼ばれ、運転席は部屋になってエアコン付き、モニター付き・・・となるらしい。



専業農家での生活は難しい。兼業農家で土日の週末農業をやり、広い田圃で大きなトラクターなどの機械を使用し、苗、農薬を買って自らの労力を使わず米を作れば儲かるらしい。

農家はいつもおいしい新米が食べれると思った。でも実際は、出荷してしまうから、新米はなかなか味わえないとのこと。

お米を食べて育った鶏は次の新年会に提供されるとのこと。お楽しみに。

2018年度 収支決算報告

2018年4月1日から2019年3月31日まで

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
(資金収支の部)				
I 経常収入の部				
1 会費収入	100,000	92,000	8,000	
1) 正会員会費収入	40,000	40,000	0	正会員年会費 2000 円× 20名
2) 支持会員会費収入	60,000	52,000	8,000	支持会員年会費 2000 円× 26 名
2 事業収入	100,000	100,800	△ 800	環境大学講座参加費と助成金
3 補助金等収入	0	0	0	
1) 民間補助金収入	0	0	0	
4 寄付金収入	200,000	181,000	19,000	
1) 寄付金収入	200,000	181,000	19,000	個人有志より
5 借入金収入	0	0	0	
1) 借入金収入	0	0	0	
6 雑収入	55,010	22,707	32,303	
1) 雑収入	5,000	5,900	△ 900	総会、新年会の会費残など
2) 保険料	50,000	16,800	33,200	ボランティア保険参加者負担分
3) 受け取り利息	10	7	3	預金利息
経常収入合計	455,010	396,507	58,503	
II 経常支出の部				
1 事業費	300,000	147,306	152,694	
1) 水源林の保護育成事業	100,000	57,252	42,748	水源の森みたく森林管理、ボランティア保険
2) 水源地域環境保全のための政策提言事業	100,000	48,374	51,626	御嵩町有林管理、ガソリン代他
3) 環境保全啓発事業	100,000	41,680	58,320	水トラストニュース印刷製本発送費
2 管理費	165,000	142,324	22,676	
1) 役員報酬	0	0	0	
2) 給料手当	0	0	0	
3) 臨時雇賃金	0	0	0	
4) 福利厚生費	0	0	0	
5) 会議費	12,000	12,000	0	理事会1回 総会1回 役員会 12 回
6) 旅費交通費	0	0	0	
7) 通信運搬費	10,000	324	9,676	切手
8) 消耗什器備品費	0	0	0	
9) 消耗品費	8,000	0	8,000	
10) 印刷製本費	10,000	10,000	0	資料代
11) 光熱水料費	0	0	0	
12) 賃借料	120,000	120,000	0	事務所賃借料
13) 諸謝金	0	0	0	
14) 租税公課	0	0	0	
15) 雑費	5,000	0	5,000	
3 予備費	15,000	0	15,000	
1) 予備費	15,000	0	15,000	
経常支出合計	480,000	289,630	190,370	
経常支出差額	△ 24,990	106,877	△ 131,867	
III その他資金支出の部				
1 固定資産取得支出	0	0	0	
1) 水源の森土地取得費	0	0	0	
2 借入金返済支出	0	0	0	
1) 借入金返済支出	0	0	0	
その他資金支出の合計	0	0	0	
当期収支差額	△ 24,990	106,877	△ 131,867	
前期繰越収支差額	966,001	966,001	0	
次期繰越収支差額	941,011	1,072,878	△ 131,867	

気軽に、楽しく 山仕事に参加しませんか

とき： 毎月第2土曜日およびそれに続く日曜日

集合場所： 御嵩町・中公民館（名鉄広見線・御嵩口下車、すぐ）

集合時間： 午前10時

参加の方法：電話、ファックス、電子メールなどで申し込んで下さい。

参加申し込み・問い合わせ先：TEL,FAX: 052-735-5453(市村)

E-mail : mitake500npo@yahoo.co.jp

服装：長袖、長ズボン、作業の出来る履き物

持ち物：軍手、弁当、水筒

9月14日(名古屋、栄)
環境デーなごや
恒例の丸太切り体験



表紙の絵は早川しょう子さん作

発行

特定非営利活動法人 みたけ・500万人の木曾川水トラスト
〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬2-28-14 名古屋働く人の家気付
TEL&FAX 052-682-4737
郵便振替00840-5-137369 (←2018年5月より)
URL <http://mitake500npo.na.coocan.jp/>
e-mail mitake500npo@yahoo.co.jp